

私のギャップイヤー

アルバピレスペレア

多くのニュージーランドの高校生は学校を卒業後すぐに進学せず、一年間様々なことを学校以外で学びます。これは「ギャップイヤー」と呼ばれて、いろいろな経験をし、勉強以外の知識を身につける機会だということ、で人気があります。

私はギャップイヤーをしたくありませんでした。というのはいろいろな国で育ったのに、視野が狭くて、自分の快適な世界を出るのがいやだったからです。高校の同級生がみんないろいろなことを経験している一方で、私はパソコンに向かう夜を過ごしていました。これは楽な生活ですが、こういう生活では実世界のことがわかるはずがありませんでした。

卒業したら、すぐに大学に進学する予定でしたが、お金がなかったので、やはり進学できませんでした。しかたなくギャップイヤーをすることになりました。しかし、どんな代

案も考えておらず、どうやってこの一年を過  
ごせばいいか途方に暮れていました。  
そして、母のアドバイスにしたがって就職  
活動をすることになりました。いくつもの仕事  
に申し込みましたが、経験がないので選ばれ  
るはずがありませんでした。レジのアルバイト  
ですらすぐに不採用になって、泣きたいほ  
ど悔しかったです。高校生のうちにパソコン  
ばかりせずに経験を積んでおけばよかったと  
後悔しました。そんな私を見ていた父が「な  
ぜレジのアルバイトをしたいの。こういう仕  
事はあなたには全然似合わないよ。創造力に  
富んでいるのだから、それを生かしたほうが  
いいと思う。自分の作品を売ってみたら。」と  
助言してくれました。そして、鳥の絵を描い  
て町のあるギャラリーで売ろうと思いました。  
本当の仕事ではありませんでしたが、しばらく  
くその生活にかなり満足していました。  
しかし、その年の8月に大変なことが起こ  
りました。父が病気になってしまったのです。

父は会社を休むことができませんでした。と  
いうのは、ニュージーランドは物価が大変高  
くて、一週間でも会社を休めば、お金が尽き  
てしまうからです。父は無理をして働き続け、  
体調がさらに悪化してしまいました。本当に  
心配しました。私は父を助けたかったのです  
が、絵を売ってもらっているお金は非常に少  
なく、生活費の足しにもなりませんでした。  
似合わなくても本格的な仕事をしないといけ  
ないのがわかって、もう一度あちこちで仕事  
を探しました。もちろん、今回も採用通知は  
一つも来ませんでした。母も仕事を探してい  
ましたが、私と同じ目にあっていました。両  
親がお金の問題で毎日けんかをし、離婚まで  
考えていることを知りながら、私は何もでき  
ず、悩みました。  
数ヶ月間そのような状態が続き、どうなる  
かと心配しましたが、運良くだんだんいい方  
向に向かい始めました。父は12月に仕事を少  
し休むことができ、元気になりました。母と

私	は	仕	事	は	見	つ	か	り	ま	せ	ん	で	し	た	が	、	ス	ペ	イ
ン	に	い	る	親	戚	が	大	学	の	費	用	を	出	し	て	く	れ	る	こ
と	に	な	り	、	翌	年	進	学	で	き	る	こ	と	に	な	り	ま	し	た
若	い	う	ち	に	い	ろ	い	ろ	な	こ	と	に	挑	戦	す	る	こ	と	
は	大	切	な	こ	と	だ	と	わ	か	り	ま	し	た	。	10	代	を	急	げ
て	ば	か	り	過	ご	し	た	の	で	、	20	代	で	は	で	き	る	だ	け
い	ろ	い	ろ	な	経	験	を	す	る	こ	と	に	し	ま	し	た	。	ま	た
就	職	活	動	と	両	親	の	苦	し	ん	で	い	る	姿	を	通	し	て	、
生	ま	れ	て	初	め	て	お	金	の	大	切	さ	を	つ	く	づ	く	感	じ
ま	し	た	。	一	年	間	休	ま	ず	に	進	学	し	て	い	た	ら	、	こ
の	大	事	な	こ	と	に	ま	だ	気	づ	い	て	い	な	か	っ	た	で	し
よ	う	。																	
大	変	な	一	年	で	し	た	が	、	大	事	な	こ	と	が	た	く	さ	
ん	わ	か	っ	た	の	で	ギ	ャ	ッ	プ	イ	ヤ	ー	を	し	て	本	当	に
よ	か	っ	た	と	思	い	ま	し	た	。									